

令和元年度重点事業について

令和元年度当初予算の概要

資料3			
【総 額】	①16,325,829千円(障害者福祉推進課) ②34,682,416千円(障害福祉事業課) 合計51,008,245千円(前年度当初比3,582,795千円 8%増)	政策経費の推移 (人件費、社会保障費 (義務的経費)を除いた額) ※28、29年度は 障害福祉課	・28年度 1,877,287千円 ・29年度 2,170,964千円
	うち社会保障費 ①15,215,500千円(障害者福祉推進課) ②33,662,305千円(障害福祉事業課) 合計48,877,805千円(前年度当初比3,542,825千円 8%増)		・30年度 1,905,978千円(2課合計) ・元年度 1,943,523千円(2課合計) 923, 412千円(障害者福祉推進課) 1,020,111千円(障害福祉事業課)

委員意見(元年度)
令和元年度当初予算事業に対する意見
委員意見(2年度)
令和2年度当初予算要求に関する意見

主要施策	取組みの方向性	数値目標	事業名等	事業概要	29年度決算額(千円)	30年度当初予算額(千円)	元年度当初予算額(千円)	※委員意見(30年度)	※委員意見(元年度)	※委員意見(2年度)	説明
4障害のある子どもの療育支援体制の充実	4－(3)－①	4－9 障害児等療育支援事業実施見込み箇所数	障害児等療育支援事業	障害児(者)施設等の有する機能を活用し、在宅障害児等に早期診断、適切な治療や訓練を実施し、また、在宅障害児等やその家族に対して適切な相談支援を実施することにより、障害の軽減や基本的な生活能力の向上、地域生活における療育・相談 支援体制の充実を図る。	79,099	99,000	99,000	回数制限の見直しをお願いしたい。 (専門、進捗状況説明の中での意見。)			協議した回数をやむを得ず超えた場合、決定額の範囲内であれば対象とできるようにしたい。
4障害のある子どもの療育支援体制の充実	4－(3)－③		発達障害児者及び家族支援体制整備事業 (H30:発達障害者支援体制整備事業)	発達障害児等の親が安心して子育てできるよう、発達障害児の子育て経験を生かして相談・助言を行うペアレントメンターによるグループ相談会の開催やペアレントメンターコーディネーターの配置を行う。	900	1,200	1,224				
4障害のある子どもの療育支援体制の充実		4－10 療育支援コーディネーターの配置人数	療育支援コーディネーターの配置	在宅の障害のある子どもに対して各々の特性に応じた療育支援を提供できるよう、医療・保健・福祉・教育関連機関の連携を調整する療育支援コーディネーターを地域生活支援事業を活用して市町村に配置するよう促す。 また、情報交換等のため、関係市町村等も含めた療育支援コーディネーターの連絡協議会を開催する。	2,996	市町村地域生活支援事業費等補助金の一部	市町村地域生活支援事業費等補助金の一部	予算の規模で選定をするのではなく、中身として大事な事業を重点事業としてほしい。 (専門)			市町村の実施内容の把握は当該年度の冬であるため、現時点で療育支援コーディネーターに係る予算額は不明。
4障害のある子どもの療育支援体制の充実			障害児施設県単措置費・障害児施設給付費県単加算費	児童福祉法に基づき、知事が施設に障害児を入所措置した場合及び知事が入所給付決定した保護者が障害児入所支援を受けた場合に児童の処遇、施設の運営に要する経費及び入所支援に要した費用について、国の基準に加算して支弁する。	148,971	148,000	159,000				近年の実績に基づいて増額
4障害のある子どもの療育支援体制の充実	4－(4)－④		小児等在宅医療連携拠点事業	在宅医療を必要とする小児等が、在宅において必要な医療・福祉サービス等が提供され、地域で安心して療養できるよう、福祉や教育などとも連携し地域で支える体制を構築するとともに、訪問看護師等への研修等を実施し、人材の育成を図る。	1,856	5,081	2,886				重症心身障害児者及び医療的ケア児者実態調査業務に係る予算の減額
4障害のある子どもの療育支援体制の充実			重度障害児等通所事業所特別支援事業	在宅にて生活する、重症心身障害児(者)等への支援の強化及びその家族への支援の充実を図るため、身近な地域において、重症心身障害児(者)等が利用できる場を確保するとともに、家族等の負担の軽減を図り、在宅において安心した生活の確保に資する。	5,016	7,000	7,000				

平成31年度重点事業について

平成31年度当初予算の概要

【総 額】	①16,325,829千円(障害者福祉推進課) ②34,682,416千円(障害福祉事業課) 合計51,008,245千円(前年度当初比3,582,795千円 8%増)	政策経費の推移 (人件費、社会保障費 (義務的経費)を除いた額) ※28、29年度は 障害福祉課	・28年度 1,877,287千円 ・29年度 2,170,964千円 ・30年度 1,905,978千円(2課合計) ・31年度 1,943,523千円(2課合計) 923, 412千円(障害者福祉推進課) 1,020,111千円(障害福祉事業課)
	うち社会保障費 ①15,215,500千円(障害者福祉推進課) ②33,662,305千円(障害福祉事業課) 合計48,877,805千円(前年度当初比3,542,825千円 8%増)		

委員意見(30年度)
30年度当初予算事業に対する意見
委員意見(31年度)
31年度当初予算事業に対する意見

主要施策	取組みの方向性	数値目標	事業名等	事業概要	29年度決算額(千円)	30年度当初予算額(千円)	31年度当初予算額(千円)	※委員意見(30年度)	※委員意見(31年度)	説明
1入所施設等から地域生活への移行の推進	1－(1)－① 1－(2)－①	1-1グループホーム等の定員(人)	社会福祉施設等施設整備費補助金	障害者グループホーム(住まいの場)や生活介護・就労継続支援B型事業所等(日中活動の場)を整備しようとする者に対して、整備に要する費用の一部を補助する。対象事業:創設・大規模改修等	120,046 (翌年度繰越338,069)	378,125	380,000	・施設整備の要望が全体で何件あって、国から採択された何件で優先順位はどのようになっているのかなどを報告できないか検討していただきたい。 (専門) ・スプリンクラー整備の補助事業の仕組みについて検討する必要がある。 (専門)	・グループホームのスプリンクラー整備について、利用者に不利益が生じないように対応していただきたい。(専門)	
1入所施設等から地域生活への移行の推進	1－(1)－①	1-1グループホーム等の定員(人)	障害者グループホーム運営費等補助(運営費、開設支援費)	グループホームの新規開設支援、運営の安定及び人材の確保に資するため、グループホームに対して運営費及び開設支援費(借家の場合の敷金・礼金)の補助を実施する。	166,309	165,000	171,000			
1入所施設等から地域生活への移行の推進	1－(1)－③	1-1グループホーム等の定員(人)	障害者グループホーム等支援事業(家賃補助、職員研修)	グループホーム等の質の充実と利用者の生活を支援するため、利用者への家賃補助(原則国1万円に加え県単2万円上限)及びサービス管理責任者や世話人など従事職員研修を実施する。	152,624	172,000	181,000			
1入所施設等から地域生活への移行の推進	1－(1)－①	1-1グループホーム等の定員(人)	障害者グループホーム等支援事業(支援ワーカー)	グループホーム等のバックアップ体制の強化を図るため、「障害者グループホーム等支援ワーカー」を配置し、新規開設支援や事業者に対する運営相談支援などのほか、地域におけるグループホーム等の支援体制の整備を行う。	60,237	60,290	60,290			
1入所施設等から地域生活への移行の推進	1－(6)－②		千葉リハビリテーションセンター再整備事業	開設から37年経過し、施設・設備が老朽化しているほか、居室や訓練室等のスペースが不足しているため、県民ニーズに対応できるよう建替えに向けた基本計画の策定等を行う。	0	18,500	64,000			・30年度実施概要 ①基礎調査の実施 ②施設整備検討会議の開催 ・31年度実施概要 ①基本計画の策定 ②測量調査等の実施 ③施設整備検討会議の開催
1入所施設等から地域生活への移行の推進	1－(6)－②	1－11千葉県袖ヶ浦福祉センター更生園の入所者数	袖ヶ浦福祉センター利用者受入等支援事業	平成25年11月に発生した利用者死亡事件を受けて設置した千葉県社会福祉事業団問題等第三者検証委員会の答申の方向性に沿って、センター利用者の民間施設や 地域への移行を進めるため、受け入れを行う施設等の整備について、障害程度等に応じた手厚い支援を行うとともに、一定期間、支援員の追加配置費用を支援する。	129,164 (翌年度繰越12,240)	73,503	77,066			・30年度実施概要 ①グループホーム等整備補助 ②支援員等の配置補助
1入所施設等から地域生活への移行の推進	1－(6)－①		袖ヶ浦福祉センター管理運営事業	県立施設である袖ヶ浦福祉センター更生園及び養育園について指定管理者制度により平成30年度から34年度までの施設の管理運営を行う。	737,000	746,879	720,632	・袖ヶ浦福祉センター指定管理料が何処にも記載されていない。更生園入所者数を半減すると六次計画上はなっているが、コストをどうするかが議論されていない。限られた予算の中で有効な予算に使っていくということについて本国会、専門部会で議論して頂きたい。(専門) ・指定管理料として適切な金額を県が主体的に検討し、強度行動障害の支援システムの構築など、有効に使うべきである。7億円という金額については、半分以下でも多いと思う。(本部)		・指定管理料 1. 更生園 H30 554,015千円 H31 531,724千円 H32 510,947千円 H33 479,961千円 H34 455,053千円 合計 2,531,700千円 2. 養育園 H30 192,864千円 H31 188,908千円 H32 182,625千円 H33 180,470千円 H34 183,050千円 合計 927,917千円

主要施策	取組みの方向性	数値目標	事業名等	事業概要	29年度決算額(千円)	30年度当初予算額(千円)	31年度当初予算額(千円)	※委員意見(30年度)	※委員意見(31年度)	説明
2精神障害のある人の地域生活の推進	2－(1)－①、⑬	2－1圏域毎の保健、医療、福祉関係者による協議の場の設置状況	精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築	精神障害のある人が、地域の一員として自分らしい暮らしを送るために、医療・福祉・介護・住まい・地域の助け合い・教育が包括的に確保された地域づくりを目指すことを目的とした事業。障害保健福祉圏域15圏域毎に事業委託を行い、6つの事業メニューを履行する。	12,540	15,815	22,808			県内15圏域に実務者会議及び代表者会議を設置し、地域の課題やニーズに関して検討を行い、課題に即した事業展開を行うこととしている。
2精神障害のある人の地域生活の推進	2－(2)－①、②	2－11 精神科救急基幹病院数、 2－12 精神科救急身体合併症に対応できる施設数	精神科救急医療の充実	精神疾患の急激な発症や精神症状の急変などにより、早急に適切な医療を必要とする精神科救急患者や措置入院患者が速やかに医療に繋がることができるよう、精神科救急医療システムや夜間休日における医療の提供体制を確保する。	165,319	199,694	192,983			連絡調整会議・連携研修会・事務説明会等を開催し、各関係機関との連携を密にすることにより、精神科救急医療体制の充実を図る。
2精神障害のある人の地域生活の推進	2－(1)－②、③		精神障害者ピアサポートの推進について	精神障害者ピアサポーターの養成を行うとともに、ピアサポート体制の在り方について検討を進める。	525	525	525			
2精神障害のある人の地域生活の推進	2－(2)		措置入院費	精神保健福祉法第29条及び第29条の2に規定する精神障害者の措置入院に要する費用を負担するもの(扶助費)。なお、保険が優先適用され、残余の費用について公費で負担することとなっている。	238,803	230,000	270,000			
3障害のある人への理解を広げ権利を擁護する取組の推進	3－(1)－①、②	3－1共生社会という考え方を 知っている県民の割合 3－2障害のある人もない人も共に暮らしやすい千葉県づくり条例に関する周知啓発活動の回数	障害のある人に対する理解を広げ、差別をなくすための事業	・「障害のある人もない人も共に暮らしやすい千葉県づくり条例」や障害者差別解消法に基づき、広域専門指導員等により個別の差別事案の解決を図るとともに、以下の施策を重点的に実施する。 ・「障害のある人もない人も共に暮らしやすい千葉県づくり条例」及び障害者差別解消法の周知 条例や障害者差別解消法の趣旨の理解が深まるよう啓発に努めるとともに、「マンガでわかる障害者差別解消法」やパンフレット等を活用して、条例や障害者差別解消法の認知度向上を図る。 ・障害者差別解消支援地域協議会、調整委員会の運営 障害者差別解消法に基づき、差別を解消するための取組を効果的かつ円滑に行うために設置した障害者差別解消支援地域協議会の運営を行う。 ・「障害のある人への優しい取組み」の実施 県内の事業所等で行われている障害のある人への優しい取組みを広く県民に周知する。 ・情報・コミュニケーションバリアフリーのための普及啓発の促進 県の各機関をはじめとして市町村や民間事業者において障害のある人の情報保障に必要な配慮が行われるよう、平成29年3月に改正した「障害のある人に対する情報保障のためのガイドライン」を活用し、県の各機関や市町村等に配慮を促す。	55,163	62,106	62,088		情報・コミュニケーションバリアフリーに関連して、2年前から開始している電話リレーサービス事業において、土曜日曜、役所の閉庁時等の対応についてまとめたガイドラインを千葉県社協のひまわり助成金を活用し作成中。ガイドラインは平成31年度3月に完成し、発送予定。ぜひ普及啓発に協力を頂きたい。(専門)	
3障害のある人への理解を広げ権利を擁護する取組の推進	3－(3)－①、⑥	3－4 虐待防止アドバイザー派遣数 3－5 職員対応要領を策定した市町村数	障害者虐待防止対策の推進	障害者虐待防止法に基づく虐待事案への適切な対応を図るとともに、障害者虐待の発生を防止するため、以下の施策を重点的に実施する。 ・虐待防止のための研修の実施 施設従事者等による虐待防止を図るため、意識改革や援助技術の向上に資する研修を実施するとともに、障害者虐待への対応や虐待防止に携わる市町村職員の資質向上を図るため、対応の流れや留意点等を習得するための研修を実施する。 また、市町村や施設・事業所等の相談に応じ、要望があれば県からアドバイザーを派遣して、適切な対応や予防ができるよう情報提供や助言を行う。 ・虐待防止のための広報等の実施 リーフレットの配布や講演会を開催することにより、障害者に対する虐待の防止に関する広報・啓発を行う。 ・虐待防止のための市町村等との連携協力 虐待を防止するため市町村等と連絡会議を開催する等、関係行政機関との連絡調整や情報の共有を図る。	3,656	7,220	7,218			
3障害のある人への理解を広げ権利を擁護する取組の推進	3－(5)－①	3－8 手話通訳者・要約筆記者実養成研修終了見込者数	手話等の普及のための事業	平成28年6月に制定された「千葉県手話言語等の普及の促進に関する条例」に基づき、手話等に関する普及啓発を広く周知するとともに、聴覚障害者のための意思疎通支援のための人材養成の強化と派遣体制の整備及び充実に努める。	48,596	42,601	46,704	高いレベルの専門知識を有する通訳者の育成が事業内容に加わった。予算確保は有難い。(専門)	手話通訳等の派遣事業は市町村が主体であり、自治体をまたぐと、ろう者に不都合がある場合もある。千葉県全体のネットワーク構築について検討をお願いしたい。(専門)	
3障害のある人への理解を広げ権利を擁護する取組の推進	3－(5)－⑤		失語症者向け意思疎通支援者養成研修事業	失語症者が、地域で包括的な支援を受けられる体制を構築することを目的とし、県民を対象として、失語症者向け意思疎通支援者養成研修を実施する。			3,510			

主要施策	取組みの方向性	数値目標	事業名等	事業概要	29年度決算額(千円)	30年度当初予算額(千円)	31年度当初予算額(千円)	※委員意見(30年度)	※委員意見(31年度)	説明
4障害のある子どもの療育支援体制の充実	4－(3)－①	4－9 障害児等療育支援事業実施見込み箇所数	障害児等療育支援事業	障害児(者)施設等の有する機能を活用し、在宅障害児等に早期診断、適切な治療や訓練を実施し、また、在宅障害児等やその家族に対して適切な相談支援を実施することにより、障害の軽減や基本的な生活能力の向上、地域生活における療育・相談 支援体制の充実を図る。	79,099	99,000	99,000	回数制限の見直しをお願いしたい。 (専門、進捗状況説明の中での意見。)		協議した回数をやむを得ず超えた場合、決定額の範囲内であれば対象とできるようにしていきたい。
4障害のある子どもの療育支援体制の充実	4－(3)－③		発達障害児者及び家族支援体制整備事業 (H30:発達障害者支援体制整備事業)	発達障害児等の親が安心して子育てできるよう、発達障害児の子育て経験を生かして相談・助言を行うペアレントメンターによるグループ相談会の開催やペアレントメンターコーディネーターの配置を行う。	900	1,200	1,224			
4障害のある子どもの療育支援体制の充実		4－10 療育支援コーディネーターの配置人数	療育支援コーディネーターの配置	在宅の障害のある子どもに対して各々の特性に応じた療育支援を提供できるよう、医療・保健・福祉・教育関連機関の連携を調整する療育支援コーディネーターを地域生活支援事業を活用して市町村に配置するよう促す。 また、情報交換等のため、関係市町村等も含めた療育支援コーディネーターの連絡協議会を開催する。	2,996	市町村地域生活支援事業費等補助金の一部	市町村地域生活支援事業費等補助金の一部	予算の規模で選定をするのではなく、中身として大事な事業を重点事業としてほしい。 (専門)		市町村の実施内容の把握は当該年度の冬であるため、現時点で療育支援コーディネーターに係る予算額は不明。
4障害のある子どもの療育支援体制の充実			障害児施設県単措置費・障害児施設給付費県単加算費	児童福祉法に基づき、知事が施設に障害児を入所措置した場合及び知事が入所給付決定した保護者が障害児入所支援を受けた場合に児童の処遇、施設の運営に要する経費及び入所支援に要した費用について、国の基準に加算して支弁する。	148,971	148,000	159,000			近年の実績に基づいて増額
4障害のある子どもの療育支援体制の充実	4－(4)－④		小児等在宅医療連携拠点事業	在宅医療を必要とする小児等が、在宅において必要な医療・福祉サービス等が提供され、地域で安心して療養できるよう、福祉や教育などとも連携し地域で支える体制を構築するとともに、訪問看護師等への研修等を実施し、人材の育成を図る。	1,856	5,081	2,886			重症心身障害児者及び医療的ケア児者実態調査業務に係る予算の減額
4障害のある子どもの療育支援体制の充実			重度障害児等通所事業所特別支援事業	在宅にて生活する、重症心身障害児(者)等への支援の強化及びその家族への支援の充実を図るため、身近な地域において、重症心身障害児(者)等が利用できる場を確保するとともに、家族等の負担の軽減を図り、在宅において安心した生活の確保に資する。	5,016	7,000	7,000			
5障害のある人の相談支援体制の充実	5－(2)－①	5－10計画相談支援従事者数 5－11相談支援専門員の養成数	相談支援従業者等研修事業	相談支援従業者等養成研修ワーキングチームによる検討を踏まえて、相談支援専門員等の育成ビジョン(習得すべき専門性)を明確にし、これに基づき各研修を体系化する。 新たに、医療的ケアを要する障害のある子ども等への相談支援の充実を図るため、関連分野の支援を調整するコーディネーターの育成研修を実施する。	5,225	6,752	7,097			
5障害のある人の相談支援体制の充実	5－(1)－⑧	5－6 発達障害者支援センター相談件数	発達障害者支援センター運営事業 及び発達障害者支援体制整備事業	発達障害のある人が可能な限り身近な地域で必要な支援が受けられるよう、千葉県発達障害者支援センター(CAS)を拠点として、市町村・事業所等への適切な助言等のバックアップや専門性の高い人材の養成を目的とした研修等を行うとともに、発達障害者地域支援マネジャーを配置し、事業所等への個別支援や医療機関との連携など地域支援機能の強化を図る。	47,990	48,000	60,436			発達障害者地域支援マネジャーの配置に係る予算を新たに計上した。

主要施策	取組みの方向性	数値目標	事業名等	事業概要	29年度決算額(千円)	30年度当初予算額(千円)	31年度当初予算額(千円)	※委員意見(30年度)	※委員意見(31年度)	説明
5障害のある人の相談支援体制の充実	5－(1)－③	5－4 千葉県相談支援アドバイザー設置数	相談支援体制整備事業(アドバイザー派遣事業)	市町村、圏域ごとの地域における相談支援体制等を整備していくため、地域の要望又は整備状況に応じて、県で登録した相談支援アドバイザーを実際に地域に派遣し、相談支援体制等の構築(基幹相談支援センターの設置を含む)のための指導・調整、研修会の開催、困難事例に関わる助言等を行う。	118	660	330	協議会に対して、アウトリーチでアドバイザーを派遣できるような仕掛けの検討が必要。(専門)		予算額は、決算の実績に応じて適正化を図った。
5障害のある人の相談支援体制の充実	5－(1)－⑤		介護保険サービスと障害福祉サービス等とのシームレス化に係る取組	介護支援専門員を対象とする障害福祉サービスに関する研修の実施、市町村における地域包括支援センターと相談支援事業所との併設又は連携の支援などを通じて、高齢障害者に係る介護保険サービスと障害福祉サービスの円滑な利用の促進に取り組む。	0	0	0			
5障害のある人の相談支援体制の充実	5－(1)－④	5－5基幹相談支援センター設置市町村数	基幹相談支援センターの設置促進に係る取組	基幹相談支援センターによる総合的・専門的な相談支援、相談支援事業所に対する助言や人材育成、関係機関の連携などの中核的な役割と、計画相談支援事業所、委託相談支援事業所の役割分担について、市町村と連携した研修会等の開催により情報共有を図り、市町村における設置を支援する。	0	0	0			
6障害のある人の一般就労の促進と福祉的就労の充実	6－(1)－①	6－15 障害者就業・生活支援センター登録者の就職件数	障害者就業・生活支援センター事業	障害者就業・生活支援センターに置かれた生活支援担当職員等が、雇用、福祉、医療、教育等の関係機関と連携しながら、障害のある人の就業及びそれに伴う生活に関する指導・助言、職業訓練の斡旋等を行い、就業の継続に必要な支援を行う。	97,699	98,704	99,088			
6 障害のある人の一般就労の促進と福祉的就労の充実	6－(5)－①	6－21 就労継続支援B型事業所の平均工賃月額 6－23 県内官公需実績	障害者の工賃アップのための事業	工賃アップを活動目的とする千葉県障害者就労事業振興センターの運営支援 (販路・受注拡大、データベース「チャレンジド・インフォ・千葉」の普及・定着、新商品開発等)や、「障害者優先調達推進法」に基づき、調達方針に基づく官公需の一層の促進に取り組む。	35,256	35,398	35,398			
7障害のある人一人ひとりに着目した支援の充実	7－(5)－①	7－11 強度行動障害のある方の支援に対する研修事業	強度行動障害のある方の支援者に対する研修事業	強度行動障害のある方への支援を適切に実施するため、民間施設の支援員等を対象に、強度行動障害についての理解を深め、支援の専門性を高めるための研修を実施する。	6,100	6,100	6,213			
7障害のある人一人ひとりに着目した支援の充実	7－(5)－④		強度行動障害者等県単加算事業	地域において居宅あるいは通所サービスでの支援が困難な強度行動障害者(児)を受け入れ支援する民間の入所施設に対して加算を行うことで、強度行動障害者(児)への支援の向上及び受け皿の拡充を図る。	35,159	36,000	39,000			
7障害のある人一人ひとりに着目した支援の充実	7－(3)－④		発達障害者支援センター運営事業 及び発達障害者支援体制整備事業 (主要施策5 障害のある人の相談支援体制の充実から「再掲」)	発達障害のある人が可能な限り身近な地域で必要な支援が受けられるよう、千葉県発達障害者支援センター(CAS)を拠点として、市町村・事業所等への適切な助言等のバックアップや専門性の高い人材の養成を目的とした研修等を行うとともに、発達障害者地域支援マネジャーを配置し、事業所等への個別支援や医療機関との連携など地域支援機能の強化を図る。	47,990	48,000	60,436			発達障害者地域支援マネジャーの配置に係る予算を新たに計上した。
7障害のある人一人ひとりに着目した支援の充実			重症心身障害短期入所特別支援事業	在宅で生活する重症心身障害者(児)の保護者等の負担を軽減するため、基準上配置が求められていない看護師の配置等を行った福祉型短期入所事業所に加算を行うことで、重症心身障害者(児)の受け皿の拡充を図る。	3,199	3,000	3,000			

主要施策	取組みの方向性	数値目標	事業名等	事業概要	29年度決算額(千円)	30年度当初予算額(千円)	31年度当初予算額(千円)	※委員意見(30年度)	※委員意見(31年度)	説明
7障害のある人一人ひとりに着目した支援の充実	7－(4)－①		重度心身障害者(児)医療給付改善事業	重度心身障害者(児)が医療保険による医療給付を受けた時の自己負担額について助成する市町村の事業に対し、補助金を交付する。	3,903,883	4,460,000	4,400,000			
7障害のある人一人ひとりに着目した支援の充実	7－(1)－③	7－5 高次脳支援拠点機関数	高次脳機能障害支援普及事業	高次脳機能障害のある人に対する支援体制を確立することを目的として、専門的な相談支援、関係機関との支援ネットワークの充実、高次脳機能障害に関する普及啓発、支援手法等に関する研修を行う。	18,000	18,000	18,000			
7障害のある人一人ひとりに着目した支援の充実	7－(6)－①	7－12 アウトリーチ型の訪問件数	ひきこもり地域支援センター事業	ひきこもり本人及び家族等からの相談に応じ、相談内容により関係機関(医療、保健、福祉、教育、労働等)につなげるとともに、希望により面接・アウトリーチ(訪問支援)を行う。	6,068	6,713	7,282			
8様々な視点から取り組むべき事項	8－(1)－①、⑥		人材の確保・定着	障害のある人のニーズ、障害特性に応じたサービス提供体制を整えるため、福祉・介護人材の確保や育成、定着対策を検討・推進する。 また、福祉・介護職員の処遇改善加算の拡充に適切に対応するとともに、引き続き 国に対して、障害福祉サービス事業所等の経営安定化や福祉・介護ニーズの拡大に対応できる人材の安定確保ができるよう、人員配置基準や報酬額について必要な改善と 適切な財源措置を要望する。	0	0	0	重心施設は指導員が不足しており、就職先を重心施設に絞った奨学金があるといい。(専門)	障害福祉に従事する職員の報酬があまりに低く、障害福祉に割かれる予算が非常に少ない。本腰を入れて人材確保をして頂きたい。 人材確保のための予算が国から来ないならば、県単独事業で行うという政策が必要。 総合支援協議会(専門部会)の中で人材確保に特化した検討をし、予算を要求して頂きたい。(専門)	①②:介護人材事業(健康福祉指導課) ①「介護人材就業促進対策」→介護の職場への就業に向けた支援等。地域医療介護総合確保基金事業)31当初188,032千円 ②「修学資金等の貸付による介護職員等の確保対策」→県社協実施貸付事業31当初 0千円 ③福祉人材センター運営事業→福祉人材養成と潜在福祉人材就労促進、福祉人材バンク事業31当初 44,603千円
8様々な視点から取り組むべき事項	8－(3)－④		更生医療等給付費負担金	市町村が、一般では既に治癒したと考えられる障害に対しその障害の程度を軽くするために更生医療を給付した場合、その更生医療給付費を負担する	1,817,524	1,885,000	1,980,000			
8様々な視点から取り組むべき事項	8－(3)－④		自立支援医療(精神通院医療)費	障害者総合支援法第58条に規定する自立支援医療(精神通院医療)に要する費用を負担するもの(扶助費)。なお、保険が優先適用され、残余の費用について公費で負担することとなっている。	7,463,590	7,597,000	8,119,000			
8様々な視点から取り組むべき事項	8－(6)－⑥		災害派遣精神医療チーム(DPAT)の体制整備	災害時における、被災地域の精神保健医療機能の一時低下や災害ストレス等による新たな精神的問題の発生に対して、専門性の高い精神医療の提供と精神保健活動の支援を行う災害派遣精神医療チーム(DPAT)を養成するため、研修や訓練を実施し、体制を整備する。	267	2,848	2,452			
8様々な視点から取り組むべき事項	8－(4)－①		東京オリンピック・パラリンピックアスリート強化・支援事業	東京パラリンピックに千葉県選手を一人でも多く輩出するため、障害者競技組織の体制整備、障害者スポーツ選手の掘り起こし、及び支援トップアスリートの発掘・障害者アスリートの強化等による育成・強化を図っていく。	15,000	15,000				
8様々な視点から取り組むべき事項	8－(4)－①		障害者スポーツ団体支援事業	障害者スポーツ競技団体やレクリエーション団体の活動を支援することにより、東京パラリンピックに向けて活性化した競技団体の活動をレガシーとすることで、障害者スポーツの振興を図る。			15,000			
8様々な視点から取り組むべき事項	8－(4)－⑧		障害者スポーツ振興事業	障害者スポーツの理解促進を図るとともに、障害のある人が県内のすべての地域でスポーツに親しめる環境の充実を図る。	1,360	19,000	15,255			

主要施策	取組みの方向性	数値目標	事業名等	事業概要	29年度決算額(千円)	30年度当初予算額(千円)	31年度当初予算額(千円)	※委員意見(30年度)	※委員意見(31年度)	説明
8様々な視点から取り組むべき事項	8-(4)		パラ「旅」応援事業	障害者スポーツの振興及び障害のある人の社会参加を促進するため、障害のある人のパラスポーツ大会観戦等を支援する。			9,800			
8様々な視点から取り組むべき事項	8-(4)-⑨		障害者芸術文化活動支援事業	障害者や障害福祉サービス事業所等の芸術文化活動を支援する「障害者芸術文化活動支援センター」を設置し、地域における障害者の自立と社会参加の促進を図る。			7,028			平成30年6月施行の障害者文化芸術推進法においては国や県が取り組むべき施策として、障害者の芸術鑑賞の環境づくり、創作活動の支援、発表機会の確保、評価や販売の環境整備等が規定されている。センターは、これら障害者文化芸術振興の業務を担う拠点となる。なお、国の第4次障害者基本計画において、平成31年度までに全都道府県へ設置することが目標とされている。
8様々な視点から取り組むべき事項	8-(7)-②		ヘルプカード普及・啓発事業	内部障害者や難病の方、または妊娠初期の方など、外見では不自由や障害に気づかれにくい方々が、困っているときに身につける「ヘルプカード」を継続して作成し、さらに、県民等からの配布の要望が挙がっているストラップ型の「ヘルプマーク」を新たに作成するとともに、広く周知するため、「チラシ」「ポスター」「ステッカー」を作成する。	753	810	4,100			
8様々な視点から取り組むべき事項	8-(3)-⑮		依存症対策について	アルコール、薬物、ギャンブル等の依存症者及びその家族に対して包括的に支援するため、関係機関との連携会議の実施、依存症専門相談支援、支援者の研修、依存症者に対する治療・回復プログラム等を実施する。	3,628	5,559	6,345			

重点事業について
平成30年度当初予算の概要

資料11

【総額】	①15,726,266千円(障害者福祉推進課) ②31,699,184千円(障害福祉事業課) 合計 47,425,450千円	前年度当初から2,498,643千円 6%増	政策経費の推移 (人件費、社会保障費(義務的経費)を除いた額) ※28、29年度は障害福祉課	・28年度 1,877,287千円 ・29年度 2,170,964千円 ・30年度 1,905,978千円(2課合計)
	うち社会保障費 ①14,626,282千円(障害者福祉推進課) ②30,708,698千円(障害福祉事業課) 合計 45,334,980千円	前年度当初から2,753,038千円 6%増		

第六次計画の主要施策	取組みの方向性	数値目標	事業名等	事業概要	29年度当初予算(千円)	29年度決算見込み額(千円)	30年度当初予算(千円)	専門部会委員意見	本部会委員意見
1 入所施設等から地域生活への移行の推進	1－(1)－① 1－(2)－①	1-1グループホーム等の定員(人)	社会福祉施設等施設整備費補助金	障害者グループホーム(住まいの場)や生活介護・就労継続支援B型事業所等(日中活動の場)を整備しようとする者に対して、整備に要する費用の一部を補助する。対象事業:創設・大規模改修等	455,200	120,046 (翌年度繰越 338,069)	378,125	・施設整備の要望が全体で何件あって、国から採択された何件で優先順位はどのようになっているのかなどを報告できないか、検討していただきたい。 ・スプリンクラー整備の補助事業の仕組みについて検討する必要がある。	
1 入所施設等から地域生活への移行の推進	1－(1)－①	1-1グループホーム等の定員(人)	障害者グループホーム運営費等補助(運営費、開設支援費)	グループホームの新規開設支援、運営の安定及び人材の確保に資するため、グループホームに対して運営費及び開設支援費(借家の場合の敷金・礼金)の補助を実施する。	172,000	166,309	165,000		
1 入所施設等から地域生活への移行の推進	1－(1)－③	1-1グループホーム等の定員(人)	障害者グループホーム等支援事業(家賃補助、職員研修)	グループホーム等の質の充実と利用者の生活を支援するため、利用者への家賃補助(原則国1万円に加え県単2万円上限)及びサービス管理責任者や世話人など従事職員研修を実施する。	169,248	152,624	172,000		
1 入所施設等から地域生活への移行の推進	1－(1)－①	1-1グループホーム等の定員(人)	障害者グループホーム等支援事業(支援ワーカー)	グループホーム等のバックアップ体制の強化を図るため、「障害者グループホーム等支援ワーカー」を配置し、新規開設支援や事業者に対する運営相談支援などのほか、地域におけるグループホーム等の支援体制の整備を行う。	60,300	60,237	60,290		
1 入所施設等から地域生活への移行の推進	1－(6)－②		千葉リハビリテーションセンター再整備事業	開設から36年経過し、施設・設備が老朽化しているほか、居室や訓練室等のスペースが不足しているため、県民ニーズに対応できるよう建替えに向けた調査・検討を行う。	0	0	18,500		
1 入所施設等から地域生活への移行の推進	1－(6)－②	1－11千葉県袖ヶ浦福祉センター更生園の入所者数	袖ヶ浦福祉センター利用者受入等支援事業	平成25年11月に発生した利用者死亡事件を受けて設置した千葉県社会福祉事業団問題等第三者検証委員会の答申の方向性に沿って、センター利用者の民間施設や 地域への移行を進めるため、受け入れを行う施設等の整備について、障害程度等に応じた手厚い支援を行うとともに、一定期間、支援員の追加配置費用を支援する。	192,989	129,164 (翌年度繰越 12,240)	73,503		
1 入所施設等から地域生活への移行の推進	1－(6)－①		袖ヶ浦福祉センター管理運営事業	県立施設である袖ヶ浦福祉センター更生園及び養育園について指定管理者制度により平成30年度から34年度までの施設の管理運営を行う。	737,000	737,000	746,879	袖ヶ浦福祉センター指定管理料が何処にも記載されていない。更生園入所者数を半減すると六次計画上はなっているが、コストをどうするかが議論されていない。限られた予算の中で有効な予算に使っていくということについて本部会、専門部会で議論して頂きたい。	指定管理料として適切な金額を県が主体的に検討し、強度行動障害の支援システムの構築など、有効に使うべきである。7億円という金額については、半分以下でも多いと思う。
2 精神障害のある人の地域生活の推進	2－(1)－①、⑬	2－1圏域毎の保健、医療、福祉関係者による協議の場の設置状況	精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築	①精神障害者が地域の一員として安心して自分らしい暮らしをすることができるよう、障害保健福祉圏域ごとの保健・医療・福祉関係者による協議の場を通じて、精神科病院、医療関係者、地域援助事業者等の関係者間の顔の見える関係を構築し、地域の課題を共有化し、地域移行・定着に関する具体的な取組みを実施する。 ②地域移行支援に取り組む精神科病院を「地域移行・定着協力病院」として認定し、公表することを通じて地域移行・定着を推進する。	15,513	12,540	15,815		
2 精神障害のある人の地域生活の推進	2－(2)－①、②	2－11 精神科救急基幹病院数、 2－12 精神科救急身体合併症に対応できる施設数	精神科救急医療の充実強化	精神疾患の急激な発症や精神症状の急変などにより、早急に適切な医療を必要とする精神科救急患者や措置入院患者が速やかに入院できるよう、精神科救急医療システムや夜間休日における医療の提供体制を確保する。	188,950	165,319	199,694		
2 精神障害のある人の地域生活の推進	2－(1)－②、③		精神障害者ピアサポートの推進について	精神障害者ピアサポーターの養成を行うとともに、ピアサポート体制の在り方について検討を進める。	525	525	525		

3 障害のある人への理解を 広げ権利を擁護する取組の 推進	3－(1)－①、②	3－1 共生社会という考え方を知ってい る県民の割合 3－2 障害のある人もない人も共に暮ら しやすい千葉県づくり条例に関する周 知啓発活動の回数	障害のある人に対する理解を広げ、 差別をなくすための事業	・「障害のある人もない人も共に暮らしやすい千葉県づくり条 例」に基づき、個別の差別事業の解決を図るとともに、以下の 施策を重点的に実施する。 ・「障害のある人もない人も共に暮らしやすい千葉県づくり条 例」の周知 条例の趣旨の理解が深まるよう啓発に努めるとともに、「マン ガでわかる障害者差別解消法」やパンフレット等を活用するな どして、条例や障害者差別解消法の認知度向上を図る。 ・障害者差別解消支援地域協議会の運営 平成28年4月より施行された「障害を理由とする差別の解消 の推進に関する法律」に基づき設置した、障害者差別解消支 援地域協議会の運営を行う。 ・「障害のある人への優しい取組み」の応援の実施 県内で障害のある人に対する優しい取組みを実践している事 業者や民間団体等の 取組みを募集し、特に優れた取組み を選考するとともに、ホームページ等で広く県民に周知する。 ・情報・コミュニケーションバリアフリーのための普及啓発の促 進	62,668	55,163	62,106		
3 障害のある人への理解を 広げ権利を擁護する取組の 推進	3－(3)－①、⑥	3－4 虐待防止アドバイザー派遣数 3－5 職員対応要領を策定した市町 村数	障害者虐待防止対策の推進	障害者虐待防止法に基づく虐待事案への適切な対応を図る とともに、障害者虐待の発生を防止するため、以下の施策を 重点的に実施する。 ・虐待防止のための研修の実施 施設従事者等による虐待防止を図るため、意識改革や援助 技術の向上に資する研修 を実施するとともに、障害者虐待への対応や虐待防止に携わ る市町村職員の資質向上を図るため、対応の流れや留意点 等を習得するための研修を実施する。 また、市町村や施設・事業所等の相談に応じ、要望があれば 県からアドバイザーを派遣して、適切な対応や予防ができるよ う情報提供や助言を行う。 ・虐待防止のための広報等の実施 リーフレットの配布や講演会を開催することにより、障害者に 対する虐待の防止に関する広報・啓発を行う。 ・虐待防止のための市町村等との連携協力 虐待を防止するため市町村等と連絡協議を開催する等、開 平成28年6月に制定された「千葉県手話言語等の普及の促 進に関する条例」に基 つき、手話等に関する普及啓発を広 く周知するとともに、聴覚障害者のための意思疎通支援のた めの人材養成の強化と派遣体制の整備及び充実に努める。	7,110	3,656	7,220		
3 障害のある人への理解を 広げ権利を擁護する取組の 推進	3－(5)－①	3－8 手話通訳者・要約筆者等養成 研修終了見込者数	手話等の普及のための事業		49,548	48,596	42,601	高いレベルの専門知識を有する通訳者の 育成が事業内容に加わった。予算確保は 有難い。	
4 障害のある子どもの療育 支援体制の充実	4－(3)－①	4－9 障害児等療育支援事業実施見 込み箇所数	障害児等療育支援事業	障害児(者)施設等の有する機能を活用し、在宅障害児等に 早期診断、適切な治療や訓練を実施し、また、在宅障害児等 やその家族に対して適切な相談支援を実施することにより、 障害の軽減や基本的な生活能力の向上、地域生活における 療育・相談 支援体制の充実を図る。	99,000	79,099	99,000	回数制限の見直しをお願いしたい。 (進捗状況説明の中での意見。)	
4 障害のある子どもの療育 支援体制の充実	4－(3)－③		発達障害者支援体制整備事業	発達障害児等の親が安心して子育てできるよう、発達障害児 の子育て経験を生かして相談・助言を行うペアレントメンター によるグループ相談会の開催やペアレント メンターコーディ ネーターの配置を行う。	900	900	1,200		
4 障害のある子どもの療育 支援体制の充実			障害児施設県単措置費・障害児施 設給付費県単加算費	児童福祉法に基づき、知事が施設に障害児を入所措置した 場合及び知事が入所給付決定した保護者が障害児入所支 援を受けた場合に児童の処遇、施設の運営に要する経費及 び入所支援に要した費用について、国の基準に加算して支 弁する。	145,000	148,971	148,000		
4 障害のある子どもの療育 支援体制の充実	4－(4)－④		小児等在宅医療連携拠点事業	在宅医療を必要とする小児等が、在宅において必要な医療・ 福祉サービス等が提供され、地域で安心して療養できるよう、 福祉や教育などとも連携し、訪問看護師等への研修等を実施 し、地域で在宅療養を支える体制を構築する。 また、今後の障害福祉施策の基礎資料とするため、重症心身 障害児(者)及び医療的ケア児等の全数実態調査を行う。	2,957	1,856	5,081		
4 障害のある子どもの療育 支援体制の充実			重度障害児等通所事業所特別支援 事業	在宅にて生活する、重症心身障害児(者)等への支援の強化 及びその家族への支援の充実を図るため、身近な地域にお いて、重症心身障害児(者)等が利用できる場を確保するとと もに、家族等の負担の軽減を図り、在宅において安心した生 活の確保に資する。	7,000	5,016	7,000		
4 障害のある子どもの療育 支援体制の充実			療育支援コーディネーターの配置 など					予算の規模で選定をするのではなく、中身 として大事な事業を重点事業としてほしい。	
5 障害のある人の相談支援 体制の充実	5－(2)－①	5－10計画相談支援従事者数 5－11相談支援専門員の養成数	相談支援従業者等研修事業	相談支援従業者等養成研修ワーキングチームによる検討を 踏まえて、相談支援専門員等の育成ビジョン(習得すべき専 門性)を明確にし、これに基づき各研修を体系化 する。 新たに、医療的ケアを要する障害のある子ども等への相談支 援の充実を図るため、関連分野の支援を調整するコーディ ネーターの育成研修を実施する。	5,506	5,225	6,752		

5 障害のある人の相談支援体制の充実	5－(1)－⑧	5－6 発達障害者支援センター相談件数	地域における発達障害のある人への相談支援体制の強化	発達障害のある人が可能な限り身近な地域で必要な支援が受けられるよう、千葉県発達障害者支援センター(CAS)を拠点として、市町村・事業所等への適切な助言等のバックアップや専門性の高い人材の養成を目的とした研修等を行うとともに、地域支援機能の強化等について、発達障害者支援地域協議会において検討する。	49,272の内数	49,261	49,425 の内数		
5 障害のある人の相談支援体制の充実	5－(1)－③	5－4 千葉県相談支援アドバイザー設置数	相談支援体制整備事業(アドバイザー派遣事業)	市町村、圏域ごとの地域における相談支援体制等を整備していくため、地域の要望又は整備状況に応じて、県で登録した相談支援アドバイザーを実際に地域に派遣し、相談支援体制等の構築(基幹相談支援センターの設置を含む)のための指導・調整、研修会の開催、困難事例に関わる助言等を行う。	660	118	660	協議会に対して、アウトリーチでアドバイザーを派遣できるような仕掛けの検討が必要。	
5 障害のある人の相談支援体制の充実	5－(1)－⑤		介護保険サービスと障害福祉サービス等とのシームレス化に係る取組	介護支援専門員を対象とする障害福祉サービスに関する研修の実施、市町村における地域包括支援センターと相談支援事業所との併設又は連携の支援などを通じて、高齢障害者に係る介護保険サービスと障害福祉サービスの円滑な利用の促進に取組む。	0	0	0		
5 障害のある人の相談支援体制の充実	5－(1)－④	5－5基幹相談支援センター設置市町村数	基幹相談支援センターの設置促進に係る取組	基幹相談支援センターによる総合的・専門的な相談支援、相談支援事業所に対する助言や人材育成、関係機関の連携などの中核的な役割と、計画相談支援事業所、委託相談支援事業所の役割分担について、市町村と連携した研修会等の開催により情報共有を図り、市町村における設置を支援する。	0	0	0		
6 障害のある人の一般就労の促進と福祉的就労の充実	6－(1)－①	6－15 障害者就業・生活支援センター登録者の就職件数	障害者就業・生活支援センター事業	障害者就業・生活支援センターに置かれた生活支援ワーカーが、雇用、福祉、医療、教育等の関係機関と連携しながら、障害のある人の就業及びそれに伴う生活に関する指導・助言、職業訓練の斡旋等を行い、就業の継続に必要な支援を行う。	98,656	97,699	98,704		
6 障害のある人の一般就労の促進と福祉的就労の充実	6－(5)－①	6－21 就労継続支援B型事業所の平均工賃月額 6－23 県内官公需実績	障害者の工賃アップのための事業	工賃アップを活動目的とする千葉県障害者就労事業振興センターの運営支援(販路・受注拡大、データベース「チャレンジド・インフォ・千葉」の普及・定着、新商品開発等)や、「障害者優先調達推進法」に基づき、調達方針に基づく官公需の一層の促進に取り組む。	36,431	35,256	35,398		
7 障害のある人一人ひとりに着目した支援の充実	7－(5)－①	7－11 強度行動障害のある方の支援に対する研修事業	強度行動障害のある方の支援者に対する研修事業	強度行動障害のある方への支援体制の整備を図るため、民間施設の支援員を対象として、強度行動障害支援についての専門性を高めるとともに、習得した知識・技術等を各地域に普及するために必要な指導技術の習得を目的とする、体系的な研修を実施する。	6,100	6,100	6,100		
7 障害のある人一人ひとりに着目した支援の充実	7－(5)－④		強度行動障害者等県単加算事業	地域において居宅あるいは通所サービスでの支援が困難な強度行動障害者(児)を受け入れ支援する民間の入所施設に対して加算を行うことで、強度行動障害者(児)への支援の向上及び受け皿の拡充を図る。	22,000	35,159	36,000		
7 障害のある人一人ひとりに着目した支援の充実	7－(3)－④		発達障害者支援センター運営事業	発達障害のある人が可能な限り身近な地域で必要な支援が受けられるよう、千葉県発達障害者支援センター(CAS)を拠点として、市町村・事業所等への適切な助言等のバックアップや専門性の高い人材の養成を目的とした研修等を行う。	48,000	47,990	48,000		
7 障害のある人一人ひとりに着目した支援の充実			重症心身障害短期入所特別支援事業	在宅で生活する重症心身障害者(児)の保護者等の負担を軽減するため、基準上配置が求められていない看護師の配置等を行った福祉型短期入所事業所に加算を行うことで、重症心身障害者(児)の受け皿の拡充を図る。	3,000	3,199	3,000		
7 障害のある人一人ひとりに着目した支援の充実	7－(4)－①		重度心身障害者(児)医療給付改善事業	重度心身障害者(児)が医療保険による医療給付を受けた時の自己負担額について助成する市町村の事業に対し、補助金を交付する。	4,468,000	3,903,883	4,460,000		
7 障害のある人一人ひとりに着目した支援の充実	7－(1)－③	7－5 高次脳支援拠点機関数	高次脳機能障害支援普及事業	高次脳機能障害のある人に対する支援体制を確立することを目的として、専門的な相談支援、関係機関との支援ネットワークの充実、高次脳機能障害に関する普及啓発、支援手法等に関する研修を行う。	18,000	18,000	18,000		
7 障害のある人一人ひとりに着目した支援の充実	7－(6)－①	7－12 アウトリーチ型の訪問件数	ひきこもり地域支援センター事業	ひきこもり本人及び家族等からの相談に応じ、相談内容により関係機関(医療、保健、福祉、教育、労働等)につなげるとともに、希望により面接・アウトリーチ(訪問支援)を行う。	6,713	6,068	6,713		

8 様々な視点から取り組むべき事項	8－(1)－①、⑥	8－5 サービス管理責任者の養成	人材の確保・定着	障害のある人のニーズ、障害特性に応じたサービス提供体制を整えるため、福祉・介護人材の確保や育成、定着対策を検討・推進する。 また、福祉・介護職員の処遇改善加算の拡充に適切に対応するとともに、引き続き 国に対して、障害福祉サービス事業所等の経営安定化や福祉・介護ニーズの拡大に対応できる人材の安定確保ができるよう、人員配置基準や報酬額について必要な改善と適切な財源措置を要望する。	0	0	0	(療育部会) 重心施設は指導員が不足しており、就職先を重心施設に絞った奨学金があるといい。	
8 様々な視点から取り組むべき事項	8－(6)－⑥		災害派遣精神医療チーム(DPAT)の体制整備	災害時における、被災地域の精神保健医療機能の一時低下や災害ストレス等による新たな精神的問題の発生に対して、専門性の高い精神医療の提供と精神保健活動の 支援を行う災害派遣精神医療チーム(DPAT)を養成するため、研修や訓練を実施し、体制を整備する。	2,592	267	2,848		
8 様々な視点から取り組むべき事項	8－(4)－①		東京オリンピック・パラリンピック アスリート強化・支援事業	東京パラリンピックに千葉県選手を一人でも多く輩出するため、障害者競技組織の体制整備、障害者スポーツ選手の掘り起こし、及び支援トップアスリートの発掘・ 障害者アスリートの強化等による育成・強化を図っていく。		15,000	15,000		
8 様々な視点から取り組むべき事項	8－(4)－⑧		障害者スポーツ振興事業	企業チームと障害者チームとの交流試合等を実施し、障害者スポーツを広く県民に周知する。また、県内にコーディネーターを派遣し、スポーツ体験会や教室を開催するとともに、貸出用競技用具を充実させるなど、障害のある人がスポーツに親しめる環境を整備する。		1,360	19,000		
8 様々な視点から取り組むべき事項	8－(7)－②		ヘルプカード普及・啓発事業	内部障害者や難病の方、知的障害または精神障害の方など、外見では不自由や障害に気づかれにくい方々が、困っているときに身につける「ヘルプカード」を作成し、併せて「ヘルプマーク」の普及・啓発を図る。		810	810		
			依存症対策について	アルコール、薬物、ギャンブル等の依存症者及びその家族に対して包括的に支援するため、関係機関との連携会議の実施、依存症専門相談支援、支援者の研修、依存症者に対する治療・回復プログラム等を実施する。	4,581	3,628	5,559		